

Le Rapport de Rennes Bien être



人生に「また」はない

文化祭が終わり、学校は少し落ち着きを取り戻していることと思います。私は新年度が始まり、新しい学生を受け入れててんでこ舞いながら楽しく過ごしています。この夏休みに入る前にはそれほど予定が入っていなかったのですが、大好きなレンヌの街をゆっくり独り占めして楽しもうと思っていた私ですが、急に来客が決まり、日本から5組もお客様をお迎えしました。日本のガイドブックには2、3ページしか紹介されていないレンヌには、何も見所がないだろうとやってきた人も、「生活を楽しむ」ことに専念して満足して帰って行きました。レンヌには毎週土曜日の朝、フランス一大きいマルシェが開催されます(今朝は、もう10月がすぐそこまできているのに、大きなヒマワリが売っていたので思わず買ってしまいました)。来客とともにそのマルシェで食料を調達して、お気に入りの公園散歩をはじごしたり、散歩中に見つけたミシュラン1つ星のご当地料理のクレープ屋に潜入したりしました。妻中の濱田先生とブルターニュのリゾート地のサンマロまで出かけたり、妻中の大昔の卒業生は仕事の都合をみんなで合わせ、自分たちの旅行を組み立てて訪ねてきました。かつて私もお世話になった先生が海外赴任したときに呼んで頂き、その先生がいらっしゃることで出かけるきっかけをもらい、心丈夫に過ごせた経験がありました。私も今回そういうお手伝いのできたことに感謝しています。また、私を海外に呼んでくださって今の私のようなサバティカルのあることを教えてくださった先生もレンヌにお呼びし、その先生の希望でドイツとの国境付近にある国立野生動物公園 Sainte Croix に出かけ、コヨーテと同宿するという貴重な経験もしました。そしてやっと恩返しができるという良い経験ができました。

そのほかにも、レンヌ1大の同僚から「北の寒い地方には夏のうちに行っておくにかぎる」とのアドバイスをきいて、急遽個人手配で局地グリーンランドとアイスランドに1人で行って来ました。フランス国内での乗り継ぎに失敗しそうになって、パリの空港を空港職員の掛け声で全力疾走したり、グリーンランドが悪天候のためにヘリコプターが飛ばないことが原因で、グリーンランドに行くための飛行機が半日飛ばずに足止めされたりと、休んだり楽しんだりするはずの夏休みにここにきてしまったことを本当に後悔しました。この手の冒険はもうお腹いっぱい、というところまで追い詰められました。ただ、日本から出かけようとするのが大変なので今しかない、という気持ちだけに突き動かされていた旅だったように思います。グリーンランドで驚いたことには、まるで聞いたことのない



デンマーク語を話すこと、イヌイト系のため私の顔をみると同胞と思われたこと、地震があることや氷河の解けた水が格別に美味しいこと。アイスランドは一気にヨーロッパの文化に戻り、氷河のハイキング、間欠泉の観察、はじめての経験をすることができました。フランスに戻る時には行ってよかったですと思えました。人生に「また」はないこと、何でもないようなこともチャンスとして捉えるかどうかにかかっていることを痛感した夏休みでした。

Le monde est petit !!! 世間は狭い

夏休み直前、大学時代の研究室の教授からある集合写真のコピー付の手紙が送られてきました。なんと27年前、教授が国際学会で発表する際にその要項を英語からフランス語訳する必要があり、その翻訳をしてくださったレンヌ1大の Bojrad 先生を探すというミッションでした。幸い、すんなりと大学のメーリングリストでその先生を探し当てることができ、不躰ながらもメールを書いてコンタクトを取れました。お会いしたことがないのにも関わらず、ご自宅の dîner に招待され、しかもバスが少ないからという理由で porte à porte の送迎付き！しかし約束の3時間前に日本の教授からメールで「今朝ほど Bojard 先生が自分たちの論文を読んだというアプリで知らせがあったので、復習しておいて話題提供できるようにすること。In print の論文の写しも添付しておくからそれも読んでから dîner に臨め」とのお達しが！私は出来るだけのことをしてお迎えに臨みました。その先生の奥様は私の IGR のボスと仕事仲間であることや、基本的な生き物の話などをしながら、とても美味しいフランスの家庭料理をご馳走になり、最後は動物細胞の細胞小器官のイラストのコップでハーブティーをいただき、代理外交、無事終了となりました。翌日、レンヌで全長 5km にもおよぶ不用品市がたつとの情報もくださったので出かけ、予てから欲しかった小皿などを調達できました。色々な方との繋がりは大切だと実感しました。



新年度 開始！

大学院では新年度、新しい学生を迎えました。日本の大学院に留学するため私たちの授業を取っている学生は13名のはずが、新たに政治学、化学を履修していて日本語を勉強したい学生も2名合流し総勢15名でスタート。その15名のバックグラウンドがばらばらであることやこの日本語の授業を取る目的が明確なのには目を見張ります。さらにアメリカ、中国、スペインからの留学生に加え、入学試験時には妊娠中で新年度には子連れ通学の学生も(大学院がその託児スペースも準備して対応)。経営学の授業がないときに日本語の授業を行うために1週間に一回、一日中日本語の授業をやる日があり、学生たちはみんなヘトヘトのはずですが、みんな目的がしっかりしていること、学習期間がたった1年であることも手伝って積極的に授業に参加しています。もちろん、ひらがなやカタカナが読めない初心者もいましたが、初心者は開始3週間を過ぎて自己紹介、数詞や曜日までマスターしました。上級者は、日本で就職活動をするときに必要な業種別の面接の練習に取りかかりました。目的が明確で時間が限られていると、これほど力がだせるのかと毎時間、彼らの爆発的な発想や、独創的な思考に唸りつづける私です。

